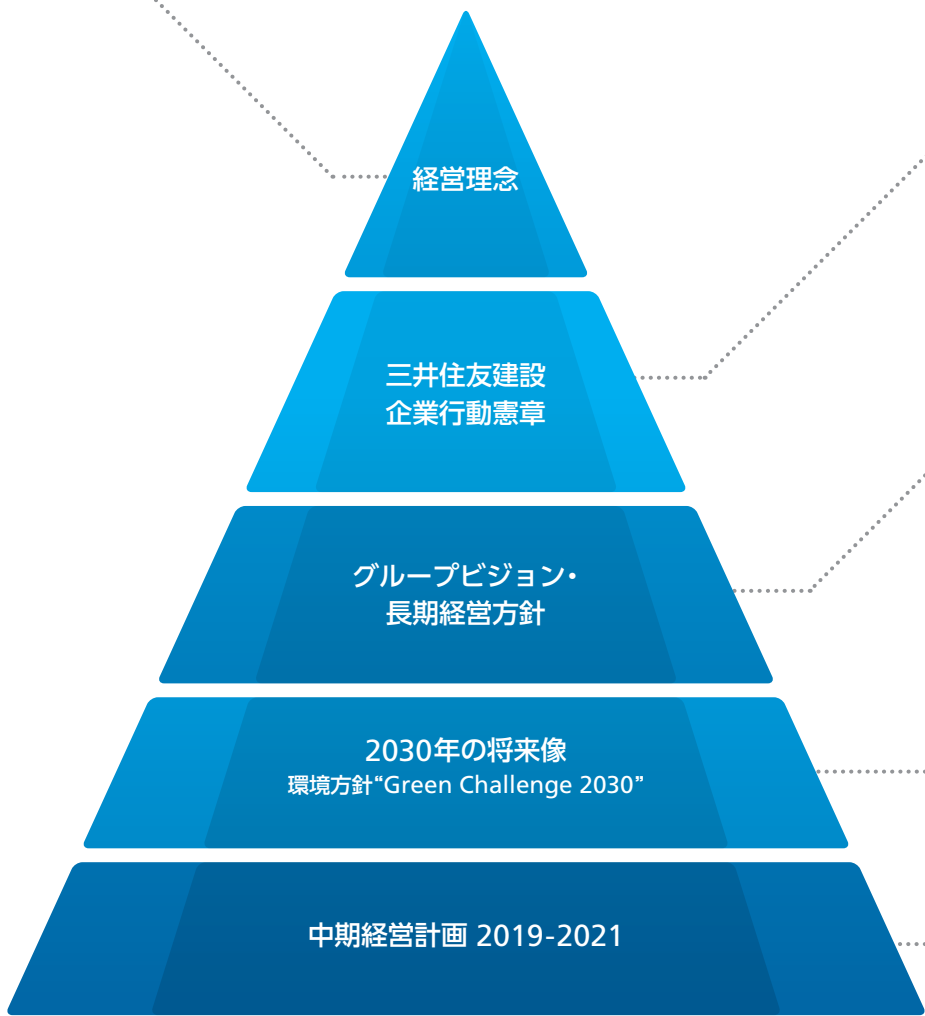


経営理念とグループビジョン

経営理念	顧客満足の追求	高い技術力と豊かな創造力の向上に努め、顧客そして社会のニーズと信頼に応えて、高品質な建設作品とサービスを提供します。
	株主価値の増大	徹底した効率経営と安定した収益力により、事業の継続的発展を実現し、企業価値＝株主価値の増大に努めます。
	社員活力の尊重	社員の個性と能力が遺憾なく発揮でき、働き甲斐のある、開かれた闊達な会社を創ります。
	社会性の重視	公正な企業活動を行い、社会から信頼される健全な企業市民を目指します。
	地球環境への貢献	人と地球に優しい建設企業の在り方を常に求め、生活環境と自然の調和を大切に考えます。

- 三井住友建設
企業行動憲章
1. (持続可能な経済成長と社会的課題の解決) イノベーションを通じて社会に有用で安全な建設作品・ソリューションを開発、提供し、持続可能な経済成長と社会的課題の解決を図ります
 2. (公正な情報開示、ステークホルダーとの建設的な対話) 企業情報を積極的、効果的、公正に開示し、当社をとりまく幅広いステークホルダーと建設的な対話を行い、企業価値の向上を図ります
 3. (働き方の改革、職場環境の充実) 社員等の能力を高め、多様性、人格、個性を尊重する働き方を実現するとともに、健康と安全に配慮した働きやすい職場環境を整備します
 4. (人権の尊重) 人権を尊重し、人を大切にする企業の実現に努めます
 5. (公正な事業慣行) 法令、社会規範、国際ルールならびに企業倫理の遵守に対する意識を高めて、公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行います
 6. (社会参画と発展への貢献) 社会の健全で持続的な発展への貢献が求められていることを認識し、社会貢献活動の推進に努め、社会と調和する企業の実現に努めます
 7. (環境問題への取り組み) 地球規模での環境への貢献が求められていることを認識し、環境の保全、維持、改善に積極的に取り組みます
 8. (経営トップの役割) 経営トップは、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識して経営にあたり、実効あるガバナンスを構築して社内、関連会社に周知徹底を図ります。あわせてサプライチェーンにも本憲章の精神に基づく行動を促します。また、本憲章の精神に反し社会からの信頼を失うような事態が発生した時には、経営トップが率先して問題解決、原因究明、再発防止等に努め、その責任を果たします

理念と経営計画の体系



- グループビジョン・
長期経営方針
- 中長期的に持続可能な企業であるために、「ありたい姿」としての3つの企業像をグループビジョンとして掲げ、その実現に向けて5つの長期経営方針を定めています。
- 安定した収益力を確保し、持続的に成長する企業グループ
 - 当社ならではの技術とサービスにより、社会的な課題に挑戦する企業グループ
 - 信義と誠実を重んじ、社会建設への参画という誇りをもって、国内外に活躍の場を広げる企業グループ
- ものづくりの
力の向上

建設事業の
競争力・収益力の
強化

魅力ある
企業づくり

環境変化に
対応した収益基盤
の重層化

CSR経営の
推進

- 2030年の
将来像
- 『新しい価値で「ひと」と「まち」をささえてつなぐグローバル建設企業』
- 国内建設需要の縮小懸念、新興国のインフラ需要の拡大、建設産業の担い手不足の深刻化、ICTをはじめとした技術革新、デジタル化の進展といった当社グループを取り巻く中長期的な事業環境の変化に対し、当社グループの強みを活かして、社員一人ひとりが未来志向を持って行動し、持続可能な社会の実現と当社グループの持続的な成長を遂げるために設定した将来像です。

- 中期経営計画
2019-2021
- 『変革の加速』
- 「2030年の将来像」の実現に向けて、生産システムの改革や人材確保・育成、社員活力の向上の取り組みをさらに進め、「変革の加速」をテーマに、企業競争力の強化と企業価値の創造に取り組んでいます。

三井住友建設は、三井グループ、住友グループの建設会社として歩んできた2社の遺伝子を受け継ぎ、2003年に誕生した総合建設会社です。

三井建設	住友建設
1887 西本健次郎、和歌山に西本組創業	1876 住友別子銅山の土木建築部門を基に前身となる土木方創設
1941 株式会社西本組を設立、本社を東京へ移す	1950 別子建設株式会社として発足
1945 三井不動産株式会社の資本参加に伴い三井建設工業株式会社と改称	1957 本社を新居浜市より東京へ移す
1950 日本におけるJV工事第一号 日比谷三信ビル改修	1959 日本初のディヴィダーク工法によるPC橋・嵐山橋が完成 3
1952 三井建設株式会社と改称	1962 静岡の勝呂組と合併し、住友建設株式会社が発足
1960 日本初のカーテンウォール工法 三井第三別館工事開始	1969 日本初のPC斜張橋・万博東ゲート橋が完成
1968 日本初の超高層ビル三井霞ヶ関ビル完成	1973 タイで初めてのPC橋・ターチャン橋が完成
1971 民間初の17階建て日本で最高層の集合住宅三田綱町パークマンション完成	1974 世界初のトラス張出し工法によるアーチ橋・外津橋が完成 4
1974 高さ日本一の新宿三井ビル竣工	1980 ケニアにニューニアリー橋が完成 第一回OCAI賞受賞
1981 皇太子殿下ご夫妻、スリランカ国会議事堂建設現場をご訪問 1	1987 日本初のLRIを採用した免震ビル・オイレス工業TC棟完成
1981 オリエンタルランド・テーマパーク工事受注	1989 世界初の中間階免震建築・アサノビルディングが完成
1987 日本初の高さ100mを超える超高層マンション「ベル・パークシティタワーG棟」竣工 2	1991 世界初の3方向分岐吊床版橋・亀甲橋が完成 FIP特別賞受賞
1988 「東京港連絡橋（レインボーブリッジ）」に日本最大級のアンカレイジ基礎ケーソン引き込み完了	1994 世界初のエクストラードーズド橋・小田原ブルーウェイブリッジが完成 世界初の本格制震ビル・テレビ静岡メディアシティビルが完成
1990 東北最大のダム「寒河江ダム」完成 世界初のアラミド繊維緊張材使用のコンクリート橋完成	1995 免震・制震構法広告が日経広告賞を受賞
1991 日本初本格的鋼管コンクリート構造「大川端リバーシティ21A棟」完成	1996 世界最大の吊床版橋・夢吊橋が完成
2001 次世代型超高層住宅「Mitsui Flex Tower」を開発	2000 米国防総省陸軍建設技術局 (COE) より安全衛生優秀賞受賞
	2001 世界初の複合エクストラードーズド橋・損斐川橋が完成



2003 三井住友建設株式会社 発足

三井住友建設

■ 土木事業 ■ 建築事業 ■ 海外事業 ■ 新規・建設周辺事業



■ 2004 青雲橋 (徳島県)
我が国の橋梁として初めて
fib (国際コンクリート連合) 最優秀賞を受賞



■ 2005 横浜タワーリング
スクエア
フルプレキャスト工法の
スクライム (SQRIM) 工法を初適用

2003

発足



■ 2006 第二メコン橋
(タイ・ラオス)
タイとラオスの国境を跨ぐ橋

■ 2008 占冠トンネル (北海道)
遠心力トンネル吹き付け工法で
施工延長3000mを達成



■ 2009 矢部川大橋 (福岡県)
我が国最大のコンクリート橋



■ 2010 武蔵野タワーズ (東京都)
スクライム (SQRIM) - H工法を初適用

2016

グループビジョン
長期経営方針
策定



■ 2012 パークホームズ
横浜岸根公園
フォレストスクエア
SuKKi採用第1号案件

■ 2013 寺迫ちょうちょ大橋
(宮崎県)
世界初のバタフライウェブ橋
fib最優秀賞を受賞



■ 2015 ネアックルン橋
(つばさ橋) (カンボジア)
500リエル紙幣に描かれた橋

■ 2015 ニャットタン橋
(日越友好橋) (ベトナム)
東南アジアで最大規模の長大橋



■ 2016 山梨文化会館
免震改修工事
テレビ局が入る文化施設を
使用しながらの大規模免震改修工事

2019

2030年の
将来像策定

2020

グローバル化
宣言



■ 2017 平木尾池
水上太陽光発電所
(香川県)
当社水上太陽光発電事業第1号

■ 2017 新名神高速道路
武庫川橋 (兵庫県)
IABSE (国際構造工学会) 作品賞で
優秀賞を受賞

2019年度の主な竣工プロジェクト



Brillia Tower 上野池之端
(発注者：東京建物株式会社)



ヤンゴン工科大学 校舎
(発注者：ミャンマー連邦共和国科学技術省)



鹿折川河川外災害復旧工事(その3)
(発注者：宮城県)



シティハウス大塚
(発注者：住友不動産株式会社)



ジャフナ大学 農学部 研究研修複合施設
(発注者：スリランカ民主社会主義共和国 都市計画・上水・高等教育省)



新名神高速道路 楊梅山高架橋(PC上部工) 工事
(発注者：西日本高速道路株式会社)



三井ガーデンホテル札幌ウエスト
(発注者：三井不動産株式会社)



東海北陸自動車道 鷺見橋工事
(発注者：中日本高速道路株式会社)

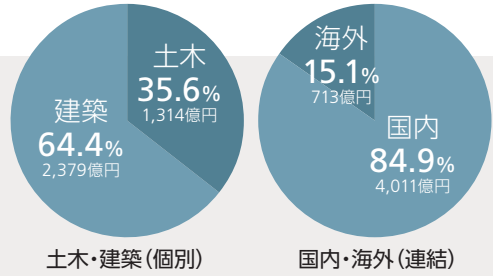
三井住友建設の事業

三井住友建設グループは、時代とともに変化する多様なニーズに応える企業として、土木分野および建築分野において培った技術力、ものづくりのノウハウを活かし、地域の発展を支える社会基盤の整備など、そのフィールドを世界に広げる事業を展開しています。事業を通して、お客さまの信頼を第一に時代が求める価値を提供する企業を目指します。

2019年度の実績

完成工事高は前年度比で5.5%増の3,693億円となりました。2020年3月末時点の繰越工事高は7,077億円で、引き続き高い水準を維持しています。海外の売上高は713億円で、連結売上高の15%を占めています。

売上高 構成比



土木事業部門



土木事業は、まちの暮らしに欠かせない橋やトンネル、鉄道、上下水道など社会基盤を支える土木構造物の設計・施工、そして維持管理に最適な技術を提供します。

中でもPC（プレストレストコンクリート）橋分野では業界屈指の設計・施工実績を誇り、新たな構造形式やプレキャスト化による工期短縮・省力化施工などの技術開発を推進し、高品質で耐久性に優れ、維持管理がしやすい橋を提供しています。また、トンネル、ダム、都市土木、河川、土地造成からエネルギー施設に至るまで幅広い分野において、豊富な実績に裏付けられた技術とノウハウで社会基盤の整備に取り組めます。

- 主な事業領域
- 橋・PC構造物
 - トンネル・シールド
 - RC構造物（土木）
 - 容器・貯蔵施設
 - 地盤・基礎 など

建築事業部門



建築事業は、事業の柱となる集合住宅をはじめ、商業施設や物流倉庫、オフィスやさまざまな産業分野の生産施設に至るまで、お客さまの幅広い分野のニーズに合わせた安心してらせる豊かな空間づくりを実現します。

長年にわたり注力してきた集合住宅の分野では、トップランナーとして高品質・高機能化を実現する技術開発・商品開発を強力に推し進め、建設会社だからこそできる「くらす人、使う人のための新しい価値づくり」に取り組めます。また、災害に強い施設づくりへの対応やお客さまの事業発展に欠かせない施設整備・再構築などを提供します。

- 主な事業領域
- 住宅・宿泊施設
 - 商業施設・オフィスビル
 - 物流倉庫施設
 - 医療福祉施設
 - 生産・研究施設 など

海外事業部門



いち早く築き上げたアジア地域を中心としたネットワークを活かしながら、日系企業の海外進出支援やODA事業への参画を通して、国際社会の発展を支える基盤づくりに貢献します。「2030年の将来像」に掲げる『新しい価値で「ひと」と「まち」をささえてつなぐグローバル建設企業』の実現に向け、日本国内で培った最新の技術、最適なプロセス管理を基本に、現地の環境に最適な提案を行い、大切に作るものづくりの精神を各地に根付かせ、高いレベルの安全管理・品質管理システムを基軸とする建設事業を展開します。

- 主な事業領域
- 橋・PC構造物
 - 都市土木
 - 生産・研究施設
 - 宿泊施設
 - 教育施設 など

新規・建設周辺事業部門



お客さまの多様化するニーズに応え、大きく変化する社会課題を解決するため、従来の建設分野が手掛ける事業領域・スタイルにとらわれることなく、「新たな事業領域への進出」に挑戦しています。

中でも当社が注力しているのは、「社会課題解決型事業」と「再生可能エネルギー事業」です。例えば、民間企業のノウハウを活用し公共施設の運営に参画する事業、遊休地やため池などを活用した再生可能エネルギー事業など、当社がこれまでに培ったノウハウと新しい発想を融合してさまざまなソリューションを提供しています。

- 主な事業領域
- 再生可能エネルギー事業
 - 水上太陽光発電用フロート製造販売事業
 - PPP/PFI事業
 - 高度エンジニアリング事業 など